





杉浦 敏 議員

巡回福祉バスに代わる、新 たなバス運行計画を聞く

問

（現在運行中の巡回福祉バスに代わる）バス交通の方向性が、市地域公共交通活性化協議会【以下「協議会」・】で議論が進められている。その計画を聞く。

 法律に基づき設立し、専門家や公募委員等20人で組織する。21年7月に設置。

バス等の運行形態や運賃等を協議する。法定計画を定め、国の補助を受けることが可能。

- (1) ① A 通勤・通学、B 病院へのアクセス、C 買い物・公共施設の利用、これが運行の3本柱となるのか。
- ② 時間帯によってバス停をコンパクト化するとあるが、どういうことか。
- ③ バスの台数は。
- ④ 有料化の問題は、子どもや高齢者、障害者の無料化を議論すべきではないか。
- ⑤ 大藤・栄南・十四山区は、高齢化率が20数%に

なっている。別の考えを導入することも考えているとあるが、どういうことか。

⑥ 新しい路線として5つ考えているとある。どんなルートを検討しているのか。

- (2) 協議会で国の委員が「国は、3年間の実証運転には補助金を出すが、4年目以降は市が自立してやることになる。全国の事例でも黒字は少ない。多くの人にバスを使ってもらうことが行政経費を減らすことになる」と述べている。

財政的な重点配分が必要ではないか。

(3) 飛島公共交通バスと連携をとってほしいがどうか。

6月から実証運行を予定

答 総務部長

(1) ① 同じ考え方である。

② 早朝、夜はバス停留箇所を集約し、通勤、通学、病院に重点を置き、昼間は公共施設や買い物等に利用するための運行をしたい。

③ 朝と夜の急行ルートは駅までの速達性を考慮し、25分前後で運行したい。

昼間は柔軟性を考え、40分前後で設定する方向で詰めようとしている。

台数は5台の案で検討している。

④ 受益者負担を原則としたい。案は、近隣の飛島村、木曾岬町の料金200円だが、決定には至っていない。

高齢者、障害者等の無料化は、今後協議会の中で議論していくと考えている。

⑤ 6月から実証運行を予定しており、また協議会で議論し、効率のよい運行に努めたい。

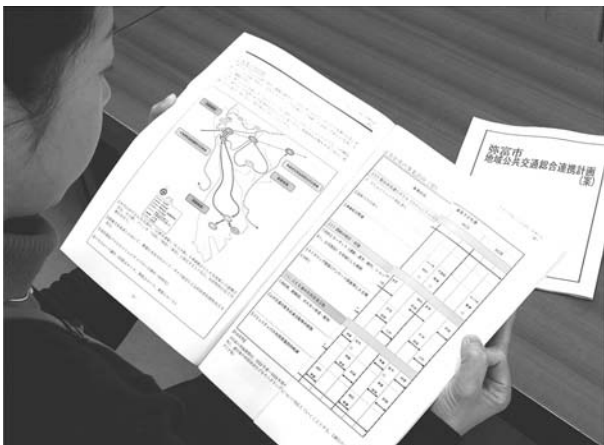
⑥ 近鉄弥富・佐古木駅を乗り継ぎの拠点として、北部地区を2路線、南部地区を2路線、十四山中心で東部地区を1路線という方向で進んでいる。

答 市長

(2) 利用勝手がいいことが目標だが、3年間は様子を見ないと厳しい面もある。

最初から目いっぱい財政投資は難しいと思う。

(3) 飛島村、木曾岬町という枠組みの中で、今後の協議対象にさせてほしい。



市ホームページに掲載された計画案